

収入保険は 秋田県の農業を応援します



新型コロナウイルスの感染拡大による収入減少



病気やケガによる収入減少



自然災害による収入減少

収入保険は、あらゆる収入減少を補償します

“無利子”の **つなぎ融資** を用意しています。
資材費や人件費の支払い、借入金の返済も心配せずに、安心して営農継続ができます。

申込期限：令和2年11月30日



スマートフォンで
アクセス▶



秋田県農業共済組合
018-825-7311

北 鹿 支 所
0186-23-7401

北 秋 田 山 本 支 所
0185-54-5540



安心のネットワーク

NOSAI

病害虫防除指導報

第362号

令和2年8月11日

発行

県北地区病害虫防除連絡協議会
☎0186-23-7401

秋田県農業共済組合

北 鹿 支 所
☎0186-23-7401

北秋田山本支所
☎0185-54-5540

1. 穂いもちの発生予想と薬剤使用上の注意点

葉いもちの発生状況と穂いもちの発生予想

病害虫防除所が7月4～6半旬に行った巡回調査では、葉いもちの発病株率は5.8%（平年3.5%）でやや高く、発病地点率は17.5%（平年18.0%）で平年並となりました。また、上位葉の発病株率は0.33%（平年0.23%）で平年並、発病地点率は5.0%（平年2.9%）でやや高くなりました。いもち病の発病程度はほ場ごとに異なりますので、発生状況に応じた適切な防除を行ってください。

薬剤使用上の注意点

穂いもちの防除対策は、病害虫防除指導報第361号を参照してください。

葉いもちが多発しているほ場では必要に応じて傾穂期に追加防除を行います。ビーム剤は葉先枯れなどの薬害を生ずるおそれがあるため、使用する薬剤はラブサイド剤とします。ただし、ラブサイド剤の総使用回数は3回のため、回数を超えないよう注意してください。また、薬剤散布後の降雨が防除効果に及ぼす影響は小さいため、散布後数日以内の降水量が液剤の場合は200ミリ、粉剤の場合は100ミリに達しなければ再散布する必要はありません。

2. 斑点米カメムシ類の防除対策

斑点米カメムシ類の発生状況と発生予想

病害虫防除所が7月4～6半旬に行った水田内の斑点米カメムシ類（アカスジカスミカメ）のすくい取り数は0.4頭（平年0.5頭）、斑点米カメムシ類（アカヒゲカスミカメ）発生地点率は10.0%（平年8.5%）でいずれも平年並となりました。

畦畔に出穂しているイネ科雑草が見られるほ場では、斑点米カメムシ類の畦畔における成幼虫数が多い傾向であることから、今後、イネの出穂期以降に斑点米カメムシ類が水田内に侵入し、イネを加害することで斑点米が多くなることが懸念されます。



アカスジカスミカメ

薬剤による防除法

斑点米カメムシ類の防除対策は、病害虫防除指導報第 361 号を参照してください。

水田内で出穂したホタルイ類などのカヤツリグサ科雑草やノビエがあるほ場、斑点米カメムシ類の発生源となるイネ科植物が主体の牧草地や休耕田などに隣接しているほ場では、次の①、②による 2 回防除が必要です。ただし、それ以外の場合には①による 1 回防除が可能です。

① 1 回目茎葉散布：出穂期10日後頃に次の薬剤を散布する。

薬 剤 名	散布量又は希釈倍数	散布液量	散布時期
スタークル粉剤 D L アルバリン粉剤 D L	3 kg/10 a	—	出穂期10日後頃
スタークル液剤 10 スタークルメイト液剤10	1,000倍	150 ℓ/10 a	

注 1) 薬剤は畦畔を含めて散布する。

注 2) セジロウンカとヒメトビウンカにも有効である。

② 2 回目茎葉散布：出穂期24日後頃に次の薬剤を散布する。薬剤抵抗性の発達を防止するため 1 回目に使用した薬剤の連用を避け、2 回目はエクシード剤かキラップ剤とする。

薬 剤 名	散布量又は希釈倍数	散布液量	散布時期
エクシード粉剤 D L キラップ粉剤 D L	3 kg/10 a	—	出穂期24日後頃
エクシードフロアブル キラップフロアブル	2,000倍	150 ℓ/10 a	

注 1) 薬剤は畦畔を含めて散布する。

注 2) エクシード剤はセジロウンカとヒメトビウンカに有効であるが、キラップ剤は両種に効果が劣る。

薬剤散布後の雑草管理

上記①の出穂期10日後頃の薬剤散布当日から散布 7 日後までに畦畔や農道の草刈りを行い、アカスジカスミカメの増殖源となるイネ科雑草の除去に努めます。その後に草刈りをする場合は、イネの収穫 2 週間前以降に行います。

薬剤防除の注意点

農薬飛散による周辺農作物への影響が懸念される場合は水面施用剤を使用します。水面施用剤を使用する場合は次の点に注意してください。

【水面施用剤】

薬 剤 名	散 布 量	散布時期
スタークル粒剤 アルバリン粒剤	3 kg/10a	出穂期 7～10日後

【注意事項】

- ① 散布時期が早いと防除効果が劣る。
- ② 処理後の多雨、低温、寡照条件では防除効果が劣る場合がある。
- ③ 3～5 cm程度の湛水状態で田面に均一に散布し、散布後 4～5 日間は入水しない。また、周辺環境に配慮し、散布後 7 日間は落水、かけ流しはしない。
- ④ セジロウンカにも有効である。

《当組合(県北 60 箇所)のカメムシのすくい取り調査結果》 ※7月下旬調査

市町村名	地区名	本田カメムシ調査虫数(頭/20回振り)		畦畔カメムシ調査虫数(頭/40回振り)	
		アカスジ	アカヒゲ	アカスジ	アカヒゲ
鹿角市	八幡平	0	0	0	0
	尾去沢	0	0	0	0
	花 輪	0	0	0	0
	柴 平	0	0	0	0
	大 湯	0	0	0	0
	毛馬内	0	0	0	0
小坂町	錦 木	0	0	0	0
	小 坂	1	0	0	1
大館市	釈迦内	0	0	0	0
	長 木	0	0	0	0
	下川沿	0	1	0	1
	真 中	0	0	0	0
	二井田	2	0	0	7
	十二所	0	0	0	0
	花 矢	0	1	0	0
	東 館	0	2	0	0
	西 館	0	0	0	0
	山 瀬	0	0	0	0
	早 口	0	0	0	0
	綴 子	0	0	0	0
北秋田市	坊 沢	0	0	0	0
	七 座	0	0	0	2
	栄	0	1	0	0
	沢 口	0	0	0	1
	七日市	0	0	0	0
	米内沢	0	0	0	0
	合川東	0	0	0	0
	合川南	0	0	0	0
	阿 仁	0	0	0	0
	上小阿仁	0	0	0	0
	榊(出戸)	0	0	0	0
	榊(機織)	0	1	0	0
能代市	扇 刈	0	0	0	2
	東雲(開拓)	0	0	0	0
	東雲(真壁地)	0	0	0	0
	常盤(久喜沢)	0	0	0	0
	常盤(天内)	0	0	0	0
	桧 山	0	0	0	0
	鶴 形	0	0	0	1
	種 梅	0	0	0	0
	響	0	0	0	0
	富 根	0	0	0	0
	天 神	0	0	0	0
	埴川(大信田)	0	0	0	0
八峰町	埴川(上畑谷)	0	0	0	0
	沢 目	0	0	0	0
藤里町	八 森	0	0	0	0
	粕毛(真土)	0	0	0	0
三種町	粕毛(矢坂)	0	0	0	0
	鹿渡(深浜)	0	0	0	0
	鹿渡(市野)	1	0	0	0
	上岩川	0	0	0	0
	下岩川	0	0	0	0
	森岳(大町)	0	0	1	0
	森岳(泉八日)	10	1	0	0
	金岡(志戸橋)	0	0	0	0
	金岡(豊岡)	0	0	0	0
	浜 口	0	0	0	0
	鶴川(飯塚)	0	0	0	0
	鶴川(川尻)	0	0	0	0